コツコツと 100 歳まで舞台に

西川きよしさんは、 横山やすしさんと漫才コンビ「やすし・きよし」を結成し、80 年代からの漫才ブームをけん引した。86 年に参院選挙で初当選、3 期 18 年務める。20 年漫才師として初めて文化功労者として顕彰。来年芸能生活 60 周年となる。

「父が事業に失敗し、すごい貧乏でした。私は 5 人兄弟の末っ子で、兄たちといつも、両親に昔のような幸福な生活をさせてあげたいと話していました。そのためには目の前の仕事を毎日、きちんと手を抜かずにやる。コツコツやり続ける。その積み重ねで６０年です」

「訪問講演で、刑務所での漫才は 1966 年から始めました。初めは緊張しましたね。どんなネタをやったらいいのか。時事ネタ、下ネタはダメだし、受けすぎると看守さんのチェックが入る。どこで線引きするか、毎回が勉強でした」

「高齢者向けのネタは実生活から生まれました。私は妻の母親、自分の両親と長年、いっしょに住んでいました。3 人とも入れ歯で。入れ歯を外すと口元に縦じわができて『口元だか、肛門だかわからしまへんわ』なんてやると、ドカーンと受けるんです。お年寄りの実生活に基づいたあるあるネタは、お年寄りも施設の担当者も実感できるので、よう笑ってくれます」

「結婚当時、私は通行人役、妻は有名なスターでしたから、ずいぶん反対されました。妻に感謝しているのが食事です。朝晩、栄養バランスのいい、おいしい食事を用意してくれます。仕事が終わるとまっすぐ帰宅し、妻の料理を食べるのが好きです」

「最も好きな仕事は劇場の舞台だ。お客との掛け合い、流れる空気、そこで生まれるアドリブ。その醍醐味がたまらない。だから思う。いつまでも舞台に立ち続けたいと」

「これまでお世話になった方々にお返しをしたい。訪問講演も続けたいし、舞台にも立ち続けたい。コツコツと 100 歳まで、お笑いの仕事ができたら幸せです」

漫才師　西川 きよし 氏

人生100年の羅針盤　日経新聞　より

人生 100 年の記事が目を引きます。諸先輩の方々の生きざまを見させてもらうと、頭が下がります。「生涯現役」・「利他の精神」・「感謝を忘れず」・・・・。自分には何ができるのだろうかと・・・・。父を想いながら。

菅平米園　園主 須田 正一